

(様式2)

第3次京丹後市観光振興計画（案）の概要

1 計画の目的

近年の京丹後市の観光を巡っては、平成25年にスタートした府北部7市町の連携による広域的滞在型観光を目指した「海の京都」の取組、平成27年の京都縦貫自動車道全線開通、平成28年の山陰近畿自動車道京丹後大宮インターチェンジまでの延伸などが相まって、平成27年及び平成28年には、観光入込客数が219万人まで回復したところです。

また、平成22年に世界認定を受けた「山陰海岸ジオパーク」は、平成27年に「ユネスコ世界ジオパーク」の認定を受け、「海の京都観光圏」においては、平成28年に「海の京都DMO」が設立されるなど、広域連携による観光の取組も強化されつつあります。

一方、今日の情報化社会の進展など社会情勢の変化、旅行形態や観光ニーズの変化がより顕著となる中、道路整備等による本市への交通アクセスの向上、近年の訪日外国人旅行者の急増、平成29年の「丹後ちりめん回廊」の日本遺産認定、そして、2020年（平成32年）東京オリンピック・パラリンピックの開催など、本市の観光を取り巻くこれらの「好機」を逃さず、さらに観光振興を図るための総合的な対応が大変重要となっています。

このため、第2次京丹後市観光振興計画（以下「第2次計画」という。）の検証と見直しを行うことにより、これらの諸課題について対応し、観光立市の実現を目指すべく、「第3次京丹後市観光振興計画～“旬”でもてなす食のまち～」（以下「第3次計画」という。）を策定するものです。

2 計画概要

(1) 計画の役割・期間・意義

① 計画の役割

京丹後市観光立市推進条例の趣旨に基づき、観光立市の実現に関する施策の総合かつ計画的な推進を図るための具体的な取組として策定しました。

② 計画の期間

5年間（平成30年度～34年度）とし、5年ごとに見直します。

③ 計画の意義

第3次計画は、第2次計画の実績や環境の変化を踏まえて、市、観光関係団体、観光事業者、市民などがその内容を十分認識し、観光立市の実現という目標に向かって、さらにそれぞれの立場で実行するものです。

(2) 明らかにすべき計画の内容

① 京丹後市の観光の現状と課題を明らかにします。

- 観光入込客数と観光形態、観光施設などの利用状況、特徴的な観光資源など、現状を明らかにします。

- 観光の課題及び対策の方向性を明らかにします。
- ② 将来ビジョンを明らかにします。
 - 観光振興のコンセプトを明らかにします。
 - 将来の目標数値を明らかにします。
 - 基本方針と、それらに基づく基本戦略を明らかにします。
- ③ 実行性のある「戦略プロジェクト」を明らかにします。
 - 基本方針と基本戦略に基づく、「戦略プロジェクト」を明らかにします。
 - 地域の現状と特色を活かした「エリア別の目標・プロジェクト」を明らかにします。

3 将来ビジョン

(1) コンセプト

“旬”でもてなす食のまち
ジオの魅力あふれる「滞在型観光地」へ

(2) 目標数値 ※現状は平成28年、目標は平成34年の数値

□年間観光入込客数	現状	219万人	⇒目標	235万人
□年間宿泊客数	現状	36万人	⇒目標	46万人
□年間外国人宿泊客数	現状	2,657人	⇒目標	9,000人
□年間観光消費額	現状	68億円	⇒目標	85億円
□年間「ジオ・スポーツ」「ジオ・アクティビティ」参加者数	現状	12,686人	⇒目標	17,000人
□食（地域の料理・食材）に関する観光客満足度	現状	73.8%	⇒目標	80.0%
□京丹後（夕日ヶ浦）の認知度	現状	29%	⇒目標	50%

4 基本方針

- <基本方針1> 「“旬”でもてなす食の観光」を徹底的に推進します
- <基本方針2> 地域資源や四季の魅力を活かした「滞在型の観光地」を目指します
- <基本方針3> 外国人旅行者等の誘致を強化します
- <基本方針4> 「ジオ・スポーツ」や「ジオ・アクティビティ」で観光交流人口の拡大を目指します
- <基本方針5> 徹底したマーケティング手法で戦略的に観光情報を発信します
- <基本方針6> 地域総ぐるみによる“観光のまちづくり”を推進します

5 施行期日について

平成30年4月1日から施行します。